

令和 6 年度

ささえあいミーティング報告書

社会福祉法人 行田市社会福祉協議会

目 次

○ささえあいミーティングの目的・内容・概要・・・・・・・・・・	1～3
---------------------------------	-----

○ささえあいミーティング各地区の結果概要

忍 地区	・・・・・・・・・・	5
行田 地区	・・・・・・・・・・	6
長野 地区	・・・・・・・・・・	7
佐間 地区	・・・・・・・・・・	8
下忍 地区	・・・・・・・・・・	9
星河 地区	・・・・・・・・・・	10
星宮 地区	・・・・・・・・・・	11
荒木 地区	・・・・・・・・・・	12
須加 地区	・・・・・・・・・・	13
北河原地区	・・・・・・・・・・	14
南河原地区	・・・・・・・・・・	15
太井 地区	・・・・・・・・・・	16
持田 地区	・・・・・・・・・・	17
太田 地区	・・・・・・・・・・	18
埼玉 地区	・・・・・・・・・・	19

○参考資料

- ・ささえあいミーティング配布資料

(1) ささえあいミーティングの目的

社会福祉協議会は、社会福祉法において地域福祉の推進組織として位置づけられており、その使命・役割は「住民主体」の原則を基に、地域の生活課題を顕在化・共有化し、その課題解決を住民と共に図っていくことにあります。こうした中で、社会福祉協議会がその使命を果たすために必要な大きな羅針盤ともいえるものが「地域福祉活動計画」です。

計画の策定は、「住民主体」で地域福祉を推進していくという根幹をなす極めて重要な取り組みであるといえ、計画策定を通して住民の福祉活動を支援していくことが社会福祉協議会の役割です。現在行田市社会福祉協議会では、第4期行田市地域福祉活動計画策定に向け、行田市との協働により取り組んでいます。

「地域福祉活動計画」は、住民の住み慣れた地域での生活ニーズ・福祉課題を基本として策定されるものです。ニーズ把握と言えばアンケート調査が一般的と考えられるが、それだけでは支援を必要としている住民・当事者の生活ニーズ・福祉課題は見えてきません。そこで地域住民同士の顔の見える話し合う場が必要となり、地域の福祉課題を発見・共有することを目的とした「ささえあいミーティング」を開催しました。

(2) ささえあいミーティングの開催状況

1) 実施日 令和6年6月16日(日)～9月29日(日)

2) 実施会場 各地域公民館他

3) 参加者 自治会長を含む各自治会3名程度

(地域包括支援センター相談協力員、子供会役員など地域活動実践者等)

民生委員・児童委員

4) 参加人数 延べ571名

ささえあいミーティング参加実績

会場	マップ		地区名	日にち	時間	会場	自治会数	実人数
1		1	忍	8月18日(日)	18:00～	忍・行田公民館	16	32
2		2	行田	8月25日(日)	10:00～	商工センター	7	15
3		3	長野	9月8日(日)	13:30～	長野公民館	20	53
4		4	佐間	9月21日(土)	10:00～	佐間公民館	9	25
5		5	下忍	9月14日(土)	16:00～	下忍公民館	5	22
6		6	星河	8月31日(土)	13:30～	星河公民館	17	34
7	●	7	星宮	7月26日(金)	10:00～	星宮公民館	5	15
8		8	荒木	9月28日(土)	10:00～	荒木公民館	11	24
9		9	須加	7月6日(土)	9:00	須加公民館	12	26
10		10	北河原	7月27日(土)	10:00～	北河原公民館	8	7
11		11	南河原	9月15日(日)	10:00～	南河原公民館	8	19
12		12	太井	9月7日(土)	13:30～	太井公民館	10	41
13		13	持田	8月25日(日)	18:30	持田公民館	20	41
14		14	太田	9月1日(日)	10:00～	太田公民館	15	35
15	●	15	埼玉	下記			17	
			合計				180	389

※星宮、埼玉地区は、「支えあいマップ懇談会」と同日開催

月	日	曜日	開始	終了	地区	場所	人数
6	16	日	10:00	11:00	上埼玉	上埼玉集会所	15
7	7	日	10:00	12:00	野	野文化センター	33
8	4	日	10:00	12:00	下埼玉	下埼玉公民館	22
8	4	日	10:00	12:00	杉原	杉原会館	23
8	11	日	10:00	12:00	渡柳・利田	渡柳農村センター	34
8	25	日	10:00	12:00	百塚	百塚自治会館	25
8	25	日	9:30	12:00	富士山東・西	富士山農村センター	25
9	29	日	10:00	12:00	片原1・2・3	片原会館(ミーティング)	5
							182

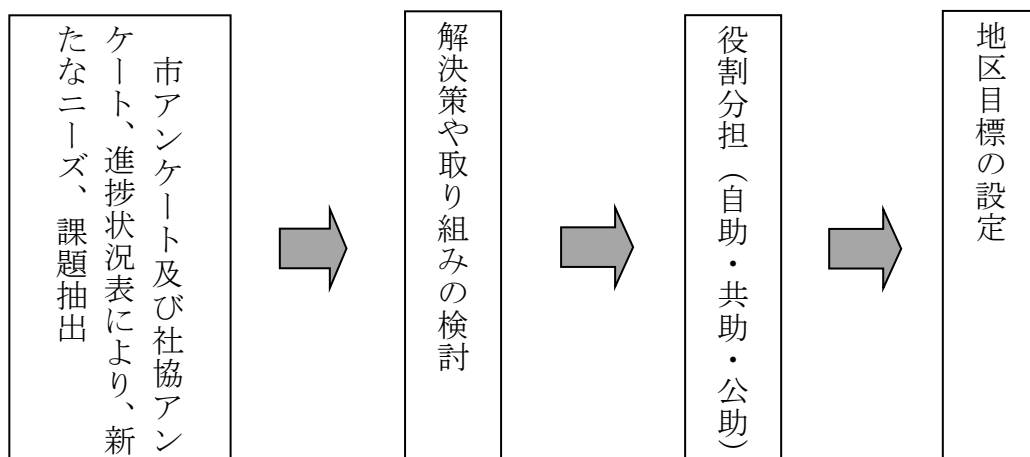
(3) ささえあいミーティングの内容

「ささえあいミーティング」は、ワークショップ※¹の手法を用い、自由な意見を語ってもらう場であり、同じ地区に暮らす住民同士が地域の将来像や夢を語り合い、地域の生活ニーズ・福祉課題に気づき、共有を図る場となります。そして、住民が抱く生活ニーズや福祉課題を引き出し、出された意見が「個別のものなのか」「普遍性をもつものなのか」「地域性をもつものなのか」「すぐに対応が可能なのか」「十分な検討が必要なのか」、あるいは、行政、社会福祉協議会・ボランティア、地域（地区）など、「誰を主体にして対応していくのか」など、多様な視点で整理・分析し、地域の課題解決に向けた手立てや方向性を考える材料となります。

※1 ワークショップは、様々な立場の人が自ら参加して、地域の課題を解決しようとする場合によく用いられます。ワークショップ(workshop)という英語の本来の意味は、「工房」「作業所」など、共同で何かをつくる場所を意味しています。

ワークショップの効果として期待されているものとして、参加者同士の体験共有、意見表出(ブレインストーミング)、創造表現、意見集約、その他のコミュニケーションを深めること等があります。また、ワークショップにおいては、意見を出し合い、まとめていく過程が重要だということをおさえておく必要があります。

(4) ささえあいミーティングのすすめ方



（５）市全体における主な課題と解決するための取り組み

１５地区で行われた「ささえあいミーティング」に参加された市民の皆さんから、多く挙げられていた共通する課題と、それらを解決するための取り組みをまとめると以下になります。

地域の主な課題	解決するための取り組み（できること）
住民同士の交流や若い世代との世代間の交流の場が少ない	声かけやあいさつに加えて会話を心がけていく。また様々な世代が参加できるイベントを開催し、移動販売亭留場所を活用した交流の場づくりを進めていく。
地域活動の担い手不足	防災活動など若い世代が参加しやすいイベントを増やし、地域活動の担い手として育成していく。
地域の情報が共有できず、災害時の対応や避難行動に不安を感じている	「ささえあいマップ」等を活用して、地域の情報を整理し、防災や防犯の取り組みを強化していく。
買い物や通院に不便を感じている	乗り合いで買い物に行くなど助け合いを進めていく。

※各地区の内容については、第 章（P ～P ）にて掲載しています。

忍地区（8月18日（日）：6グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・情報が入りにくく、隣近所のことを把握することが難しい。 ・高齢者やひとり暮らしの人が増えており、買い物や通院等に不便を感じている。 ・世代間の交流が薄く、地域活動へ若い人も少ない。 ・以前進めていた災害時などの対応を進める必要を感じている。 ・自治会に若い人の参加が減り、役員の担い手がいなくなっている。
取 組 方 針	・今あるつながりを維持しながら、若い世代も参加しやすい環境づくりを進める。 ・小さなつながりの場をつくり、隣近所のつながりを強化していく。 ・気軽に声を掛け合える地域にする。（民生委員や自治会長に言える関係づくり） ・ささえあいマップで情報を共有し、防災の取組みにも活用していく。
具体的な 取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・夜間防犯パトロールしながら要支援者の見守りを実施する。 ・今ある交流活動の継続や旅行会の再開をする。 ・要支援者も参加する防災訓練の実施をする。 ・自治会合同でイベントを開催する。 ・若い人が参加しやすい環境づくりを行う。



行田地区（8月25日（日）：3グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・自治会役員等の高齢化により後継者が見つからない。 ・ひとり暮らし高齢者が増えており、ごみ捨てなど日常生活が大変な人がある。 ・医療機関や店舗が少なく、日常生活において通院や買い物に不便を感じている。 ・災害時の避難や対応に不安を感じている。 ・世代間交流の機会が少なく、次世代へ引き継ぎが難しい。
取 組 方 針	・ささえあいマップづくりを継続し、安心安全な地域づくりを進めていく。 ・複数の自治会合同の行事を企画して人との交流を増やしていく。 ・男性の参加や高齢者と子どもなど幅広い交流の場づくりを進めていく。 ・空き家を活用した居場所づくりを検討していく。 ・交流の場や居場所づくりにより、顔の見える関係や若い世代が参加する地域づくりをしていく。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・ささえあいマップづくりを継続活用する。 ・高齢者と子供が交流する機会を増やす。 ・複数の自治会合同で行事を開催し、交流を広げる。 ・いきいきサロン以外にも空き家を活用する等高齢者の居場所を増やしていく。 ・将棋や麻雀等を通じて男性が集まりやすい場所をつくる。



長野地区（9月8日（日）：9グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・高齢化で自治会役員などの担い手がない。高齢者も働くようになり、さらに人手がなくなった。 ・積極的に地域活動に参加してくれる若年層もいるが、関わりのない人も多い。 ・ひとり暮らしの高齢者からは「話をしたい」という要望があるが、集まる場所や機会が少ない。各行事は実施に手間がかかり、縮小傾向となっている。 ・集まる機会があっても、参加するメンバーが毎回同じ顔ぶれである。 ・各世帯の情報取得にハードルがあり、住民の把握がしにくい。自治会を抜ける人もおり、災害時の安否確認などにも不安を感じる。
取 組 方 針	・ひとり暮らしの方が増えているため、近所の人気が気にならず、「助けて」と気軽に言えるよう、普段から交流する。 ・青年部や子供会と自治会で、世代を超えて参加できる催しを実施する。 ・開催が負担にならないような、小さな集まりや交流を増やす。 ・支えあいマップを活用して、情報共有と助け合いの体制づくりを行う。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・飲食店を利用した女子会やグラウンドゴルフ、ラジオ体操、サロンなど、今ある交流の場を継続していく。 ・祭りなど、多世代が参加しやすいイベントを継続していく。運営は子供会や青年会と連携する。 ・台風の際に高齢者の安否確認を行うなど、現在の地域のつながりを維持していく。 ・足が悪い方や認知症の方などを本人や家族の同意を得て支えあいマップを活用し、避難支援の準備や役割分担をしていく。 ・行政、社協、包括支援センターなどと連携し、必要な人が適切に制度やサービスを使えるよう情報提供する。



佐間地区（9月21日（土）：4グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・ 役員の仕事が多く、また自治会に入らない世帯が多くなってきている。 ・ 一人暮らし高齢者や日中不在の家が多く、防犯面や災害時に不安がある。 ・ 老人会やサロンの解散も伴い、つながりの機会が減少し、緊急時などの不安がある。 ・ 大雨による洪水の危険性があり、避難所まで行けない地域がある。
取 組 方 針	・ あいさつを通して、日頃からの近所づきあいを深めます。 ・ スポーツのイベント等で、多世代の交流を図っていく。 ・ ゴミ出しなど、近所の助け合いで行う。安否確認を兼ねることができる。 ・ 災害時のサポート体制を具体化するために、「支えあいマップ」を継続する。 ・ 地域内の企業などと連携・協力して、一時的な避難場所を確保します。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・ 役員だけではなく、気づいた人が声掛けを行っていくようにする。 ・ 支えあいマップづくりを継続し、情報の共有を図る。 ・ 災害時に備え、企業連携をしておく。 ・ 災害に対応できるまちづくりを目指す。



下忍地区（9月14日（土）：2グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・近所や世代間交流が薄れてきている。 ・避難所まで行くことが難しいなど、防災対策が必要である。 ・サロン参加者の高齢化に伴い、集まる機会が少なくなっている。
取 組 方 針	・普段からの挨拶やコミュニケーションを大事にしていく。 ・定期的な防災訓練の実施により、防災意識の向上を図っていく。 ・支援が必要な人に、必要な情報提供を行う。 ・子供が参加しやすいイベントの開催にする。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・役員以外の住民にも、地域に関わってもらえるように理解を進めていく。 ・地域役員による高齢者見守り活動を継続する。 ・移動販売の利用により、集いの場をつくっていく。 ・若年層の自治会の参加や自治会の理解してもらうためのイベントを開催していく。



星河地区（8月31日（土）：8グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・役員の高齢化や若い世代の自治会離れ、役員の負担増により、地域活動の担い手が不足している。 ・地域の高齢化が進んでおり、日ごろの見守りや災害対策が重要になるが、個人情報などの問題で世帯状況が把握できない。 ・買い物や病院など、交通の便が悪く自家用車が必須である。 ・介護保険制度をはじめ、高齢者が利用できる制度の使い方を知らない。または他人の手を借りたくないと言って制度を使わない。
取 組 方 針	・児童会などと連携して、地域活動に若い世代が出てきやすいように工夫する。 ・世代間交流の場やイベントを設ける。 ・災害時を想定し、支えあいマップを活用して地域の状況把握に努める。 ・近隣で乗り合いして買い物に行くなどの助け合いはあるので、安全や保障などの面で制度のフォローがあればよい。 ・地域のつながりを生かして、高齢者が使えるサービスの情報共有をしていく。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・自治会の役員数や仕事の負担を減らして、自治会活動に参加しやすくする。 ・今ある交流は継続しつつ、小規模なイベントを実施して世代間の交流を増やしていく。（広場での交流、親睦会、自主サロンなど） ・避難行動要支援者登録を促し、漏れのない避難支援につなげる。また、支え合いマップを活用していく。 ・災害時に近隣の企業に協力を得られるよう工夫・検討していく。 ・複数の自治会合同で防災訓練を実施する。 ・高齢者が利用できるサービスの情報や利用方法について、必要であれば各関係機関を招いて説明会を行う等、住民同士で共有する。



星宮地区（7月26日（金）：5グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・子どもが少なく地域内の世代間の交流も少ない。 ・ひとり暮らしが増えて、緊急時の対応が必要な人が増えている。 ・高齢などで近くの集会場や祭りに出かけることも難しい人が増えている。 ・交通の利便性が悪く、車に乗れない高齢者の買い物や通院に不安がある。 ・避難所が遠いなど、災害時の避難に不安がある。
取 組 方 針	・「支えあいマップ」を継続して活用、要支援者の避難誘導等の訓練にも活用していく。 ・ご近所同士のつながりを強化するため、声掛けや回覧板手渡しなどできるだけ意識して会話をしていく。 ・現在のイベントは継続しながら、世代間交流できるように工夫していく。 ・自治会同士連携し、合同でイベントを開催することで、多くの人の交流の場をつくっていく。
具体的な 取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・高齢者への声掛け（LINE等も活用）・マップづくりの継続をしていく。 ・イベントを利用して顔を合わせる機会を増やす。 ・複数の自治会合同でお祭り等イベントを開催する。 ・人が集える拠点を複数つくる。（農村センターなど）



荒木地区（9月28日（日）：5グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・地域活動への参加者が固定化されているため、若い世代の参加が必要である。 ・高齢化が進む中、災害時の対応強化する防災の取り組みが必要である。 ・ご近所同士のつながりが薄くなっているため、交流づくりが必要になっている。 ・防災や見守り等「支えあいマップ」づくり等を通じた地域の状況把握が必要になっている。 ・買い物や通院が不便であり、交通機関が利用しにくい。
取 組 方 針	・若い世代も参加できる多世代交流イベントを行い、顔の見える地域づくりを進めます。 ・防災の取組みを強化し、安心の地域づくりを進めます。 ・「支えあいマップ」を活用し、地域の状況を定期的に把握します。 ・地域の関係者と連携し、買い物等の課題解決に向けた工夫を検討します。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・地域であいさつ運動を行う。 ・地域で交流イベント（まつりや防災訓練等）を開催する。 ・移動販売、宅配場所や公民館等を拠点として地域の交流の場をつくる。 ・「支えあいマップ」づくりを通じて地域の課題や防災の取組みを検討する。



須加地区（7月6日（土）：5グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・若い世代の地域活動への参加が少ない。 ・交通機関整っていないため、生活が不便である。 ・集い場がない。 ・日中独居者が多く、家に閉じこもっている人が多い。
取 組 方 針	・地域状況の把握のため、支えあいマップづくりを継続していく。 ・郷土芸能や運動会などの行事の際に、若い世代の地域活動参加を促していく。 ・必要な方に対して、必要な情報提供を行っていく。 ・いきいきサロンの再開を目指す。
具体的な 取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・支えあいマップを実施し、地域の状況・情報を共有していく。 ・複数の自治会で、合同の講座を開催し、集会所を活用したつながりづくりを行う。 ・移動販売を通じて、交流の機会を増やす。



北河原地区（7月27日（日）：1グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・役員が固定化になることや、一人が複数の役をもつことになり多忙である。 ・ひとり暮らし高齢者が増えており、日常生活の維持に支障がある。 ・地区で集まる機会が減少し、交流がなくなっている。 ・コンビニや移動販売までの距離が遠く、買い物が不便である。 ・地域において、住民同士が集まる機会がほとんどない。
取 組 方 針	・普段より小さいコミュニケーションの積み重ねにより、交流を深めていく。 ・高齢者の見守り体制の構築のため、支えあいマップを活用する。 ・担い手の育成や発掘を図っていく。 ・各個人が地域に目を向けるように、努めていく。 ・子どもが参加できるイベントや多世代が交流しやすいイベントを工夫して実施する。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・支えあいマップの更新をしていく。 ・移動販売の停留場所を検討していく。 ・支援が必要な人に対して、必要な情報が提供されるように工夫していく。



南河原地区（9月15日（日）：3グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・ 高齢男性の交流の場がない。 ・ 敬老会の廃止や消防団の解散により、交流の場がなくなってしまった。 ・ 地域の役員の成り手がいない、固定化されてしまう。 ・ 出掛けるための移動手段が整っていない。
取 組 方 針	・ 男性が参加しやすい企画を実施していく。 ・ 外国籍の人に母国料理など教えてもらえる機会をつくる。 ・ サロンなど、人との交流の場を維持していく。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・ サロンは初心者でも入りやすい状況をつくる。 ・ 様々な情報を共有し合える地域をつくる。 ・ 若い世代を含めたゴルフコンペやマージャン大会など企画する。 ・ 移動販売の停留場所を増やしていく。



太井地区（9月7日（日）：5グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・地域活動に参加する人が少なく、自治会運営や世代交代が難しい。 ・ひとり暮らし高齢者が増えており、買い物やごみ捨てなど日常生活に不便を感じている。 ・隣近所との付き合いが希薄になり、地域の情報が共有できず、防災・防犯等緊急時の対応に不安がある。 ・若い世代に参加してほしいが、自治会や子ども会の行事も減り、交流の機会が少なくなっている。 ・不登校の子どもや高齢者の移動に対する支援や協力体制づくりが必要になっている。
取 組 方 針	・隣近所と声掛け合い、いつまでも安心して暮らせる地域を目指す。 ・地域住民が気軽に参加できるイベントを開催し交流の機会を増やしていく。 ・防犯活動に若い世代も参加してもらい、安心安全なまちにしていく。 ・専門的な知識や技術のある方を共有し地域活動に活用していく。
具体的な 取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・いきいきサロンを活用し交流の場とする。 ・子供が参加・交流できるイベントを増やす。 ・ラジオ体操等を開催、世代間交流をはかる。 ・夏祭りなど今あるイベントを継続し、つながりを維持する。 ・防犯パトロール等に併せて見守り活動を実施する。



持田地区（8月25日（日）：8グループ）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・自治会役員などが高齢化しており、若い世代の参加が少ない。 ・若い世代と交流する場やきっかけがない。 ・気軽に集まれる場所が少ない。 ・高齢者の孤独死が発生している。 ・高齢者の免許返納後の移動手段がなく、不便である。市外に通院する人も多いが、デマンドタクシーなどは利用できない。
取 組 方 針	・顔の見えるオープンな地域をつくっていく。 ・近所同士で気かけ合い、自然に助け合えるような地域とする。 ・地域のイベントなどを通し、子供から高齢者まで皆が交流できるようにする。 ・現在ある交流を継続し、さらに交流の場を増やす。 ・イベントの企画や開催は、負担を少なく実施する。
具体的な 取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・高齢者同士や子育て世代同士などそれぞれのつながりがあるので、今ある交流を継続し、世代間交流を図っていく。 ・防災訓練の内容を工夫するなど、若い世代や親子が地域活動に参加できる機会を増やす。 ・自治会加入のメリットや住民が楽しめるイベントを企画する。 ・「支えあいマップ」を活用し、地域の状況を把握する。



太田地区（9月1日）（水）：5グループ

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・高齢者が増加しており、閉じこもりがちである。 ・交流する機会がなくなっている。 ・移動手段少なく、買い物など不便を感じている。 ・外国人のゴミ出しのルールや自治会のマナーなど理解してもらうことが難しい。
取 組 方 針	・若い人や親子で参加しやすいイベントを企画して、交流の機会を増やしていく。 ・ゴミ出し分別等、自治会ルールのマニュアル作成をする。 ・外国人との交流イベントを開催する。 ・集会所を開放して、交流の場を設ける。
具体的な取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・独自のご近所サロンを立ち上げる。 ・地域の祭りを継続していく。 ・「支えあいマップ」の更新を進めていく。 ・移動販売を通じ、交流を図っていく。 ・消防団と連携した防災訓練を実施する。 ・規模は小さくしても、イベントは継続していく。 ・外国人の方に、田畑の貸し出しができるシステムを構築していく。



埼玉地区（6月16日～9月29日：8会場）

【取り組むべきと次期計画期間の取組方針（整理）】

課 題	・地域に店舗や医療機関がなく、また利用しやすい移動手段が乏しい。 ・生活には自家用車が必須であり、高齢者は免許返納してしまうと生活が成り立たない。 ・世代間の交流が少ないため、顔の見える関係づくりが必要である。 ・若年層の地域活動への参加が少なく、地域活動の担い手の高齢化が進んでいる。 ・指定避難所が遠い地区もあるため、支援を要する高齢者や障害者等の避難が難しい。
取 組 方 針	・今ある地域のつながりを継続しつつ、顔の見える関係を広げていく。 ・お互いに困りごとを言い合える関係を築く。 ・気軽に集える交流の場を作っていく。 ・支えあいマップづくりを継続していく。
具体的な 取組	（計画期間の前半でできそうなこと・すぐできることを例示） ・日頃からの挨拶や声掛けを通して、困っていることを気軽に自ら発信できる地域にする。 ・移動販売や市民を守る会を活用するなど、地域の資源を上手に使える人を増やす。 ・日常生活で便利に使える制度を、知らない人にも周知していく。 ・祭りやオープンサロンなどを活用し、親子でも参加できるような交流できる機会を作っていく。 ・支えあいマップづくりを継続し、地域情報の把握、共有を深めていく。



